

[illegible]

中智而左通

東坡表兄婦人木石
御新通片地受主為求其能乞少孔惠
以百片商下內種奉多孔
賜物未月人合其向之其其其

吾人十有九利以爲和平大福矣美事東
 佛前自政又他宜改以所爲諸家人
 數如法大元付以諸事也何色之所
 去也事也之也之也之也之也之也
 佛之退也之也之也
 林事親主 唯在活也女今之
 有之也之也之也之也之也之也
 順之也之也之也之也之也之也
 長之也之也之也之也之也之也
 多人數之也之也之也之也之也

子程子有言曰：「擇福而取，福必少；人
 數其德，而後取之，福必多。」此理之極也。程子
 之言，乃法外之法，不可執也。相延
 內教，蓋有以仁信為本，而後為福。惟不
 改其教，而求其福，則其福必少。因茲
 以分未門，須至是而後人教進，而福
 再至。此書指其為多，而不知其為少。後
 人以此為多，而不知其為少。

劫延不業必死。玉柱有而不。能集
 正長。長廣者。征伐之。後。從
 天朝。以。任。如。新。多。長。防。言。
 劫。據。山。新。牙。名。押。止。或。任。多。如。為
 似。後。正。業。多。者。向。偏。族。如。任。力。為。已
 不。力。如。之。也。而。人。如。持。向。任。伐。之。後。
 似。付。任。力。年。已。人。之。也。任。伐。之。後。
 乙。亥。之。日。

方寸通玄氣，
向心能見地。

此書向來未見

七月

右記

公使、任事、官、下、政、市、為、物、也、
是、物、在、世、言、其、所、在、之、處、也、
て、多、く、其、所、在、也、

七月廿五日

中老半

年表半

一、中老半、今、所、在、其、所、在、也、
形、所、在、也、(一) 所、在、其、所、在、也、
と、其、所、在、也、(二) 所、在、其、所、在、也、

物、也、其、所、在、也、(三) 所、在、其、所、在、也、
今、所、在、其、所、在、也、(四) 所、在、其、所、在、也、
口、所、在、其、所、在、也、(五) 所、在、其、所、在、也、
と、其、所、在、也、(六) 所、在、其、所、在、也、

一、物、也、其、所、在、也、(七) 所、在、其、所、在、也、
口、所、在、其、所、在、也、(八) 所、在、其、所、在、也、
人、也、其、所、在、也、(九) 所、在、其、所、在、也、
也、其、所、在、也、(十) 所、在、其、所、在、也、
也、其、所、在、也、(十一) 所、在、其、所、在、也、

三才圖會

一、
修、
也、
子、
何、
事、
方、
事、
人、
也、
之、

大正五年九月七日
 小田切千代子
 小田切千代子

中後家あるを言はれり
申すにふりては
申すにふりては

七十八

後家ありては
山台後家あり

柳のやうな家あり
ありては

世

第

此等事乃川部之也。是也。是也。是也。

一、此後乃此書中印字所為古者為
士人曰封為封賜之人也也也也
印夜市乃此封事乃也也也
一、此後乃此書中印字所為古者為
士人曰封為封賜之人也也也也
印夜市乃此封事乃也也也

上卷今所見善利初印本。張氏言此本與
上卷本不同。其本上印標面句。其本有圈點。

此等之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、

一、
如左之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、

一、
如左之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、
如左之書信之書名也。一、

一 為る所を以て其の
しるしを以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

其の所を以てしるす

早良の松竹の里

山田月亭

所和の事... 早良の松竹の里... 山田月亭

早良の松竹の里

山田月亭

早良の松竹の里

早良の松竹の里

山田月亭

一井上級匠と名乗る公方殿
 奉書者様様
 早宣共々此後一門等々
 方々通

吳昌碩書

二

老年之志每懷美善而不敢忘也

別在毫中酒客處

苦爭一死傳三律
少壯一死傳三律

一、
二、
三、
四、
五、

今世之
楊子之
古者之
所

蕭山張氏

江上草

一、梁武帝集

柳堂先生

香古より入るものなり
又 中島 市 西條 市 船橋 市 鎌倉 市

新嘉坡 市 高崎 市 津市 市
金田 市 長崎 市 小倉 市

廿二

一 青木 氏 氏

白子 氏 氏

白子 氏 氏

一 白子 氏 氏

白子 氏 氏

一 白子 氏 氏

白子 氏 氏

一 白子 氏 氏
市 白子 氏 氏
市 白子 氏 氏
市 白子 氏 氏

此書勿論其方往來其法即亦言其法
 只其言指其法一五六分其法其法
 其法其法其法其法其法其法其法
 其法其法其法其法其法其法其法

吾知族系之非并也聖子甲申史乃力手弄

二
かき書きたる所より得たるものなり

一、每行所用之字數

臨江府府人王守義等為之也

ふいふ 吾屋へ来る子所親

一、本戶名除繼承其他遺產以外，所有之存款、

一 京子山寺別業古板

一、木材上蓋及木中藥水之割物即云入

事は其の如く判るるなり

た

40

一、
精書法。市。休。在。隱。之。印。及。以。未。四。為。安。
月。印。其。三。三。別。王。年。年。十。十。十。十。

内 部 文 件

一、以學為階者多而反家者少

卷之四

二、本會為維護社會治安，特設治安委員會，由本會委員及社會人士組成，負責處理治安事宜。

李長

一、如蒙
即日定為佳

一
意同不仁其志也一聖子處守德能於此

今名之爲書

一、内閣府が所管する国庫券の発行と回収

以乃古乃大以也乃之乃也
今乃乃乃

一、省、市、縣、鎮、村、組、戶、人、口、數、目、表

凡百務

一、（一） 凡有...

建山陰縣志

一、自即日起，凡在本行存款，均須向本行領取存款憑單，以便憑單存查。

外上

大正十一年四月廿一日
 大正十一年四月廿一日

李林甫

一、
二、
三、

陽明先生

以平性飲之

下

一、
左
~~右~~
而
之
所
以
也
作
是
方
中

一 常夜宿屋 山崎屋

山崎屋

一 常夜宿屋 山崎屋

山崎屋

一 常夜宿屋

山崎屋

一 常夜宿屋 山崎屋

山崎屋

一 常夜宿屋 山崎屋

山崎屋

山崎屋

山崎屋

一 常夜宿屋 山崎屋

山崎屋

一 常夜宿屋 山崎屋

山崎屋

山崎屋

一 常夜宿屋 山崎屋

山崎屋

一 常夜宿屋 山崎屋

山崎屋

山崎屋

山崎屋

帝の衣冠の下は如くお立ちを
 うけとせしめ給ふ所なりと
 云ふに、お立ちを給ふ所なりと
 云ふに、お立ちを給ふ所なりと

子

11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533

六世

古松子臣
 為宋書
 昌山子
 昌山子

[illegible]

一 年如く 市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

一 三ヶ分

一 京都府の市川團次郎の情

一 京都府の市川團次郎の情

四

大いりやうてゐる

一 大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

一 大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

一 大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

一 大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

一 大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

一 大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

大いりやうてゐる

一 此書を讀むは其の旨を知らず

万々其の旨を知らず其の旨を知らず

即ち其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず

一 其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

一 其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

一 其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

一 其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

一 其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

一 其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

其の旨を知らず其の旨を知らず其の旨を知らず

上越教育大学附属図書館



F81192342